

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富士見小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 103人

② 算数 103人

③ 理科 103人

5 留意事項

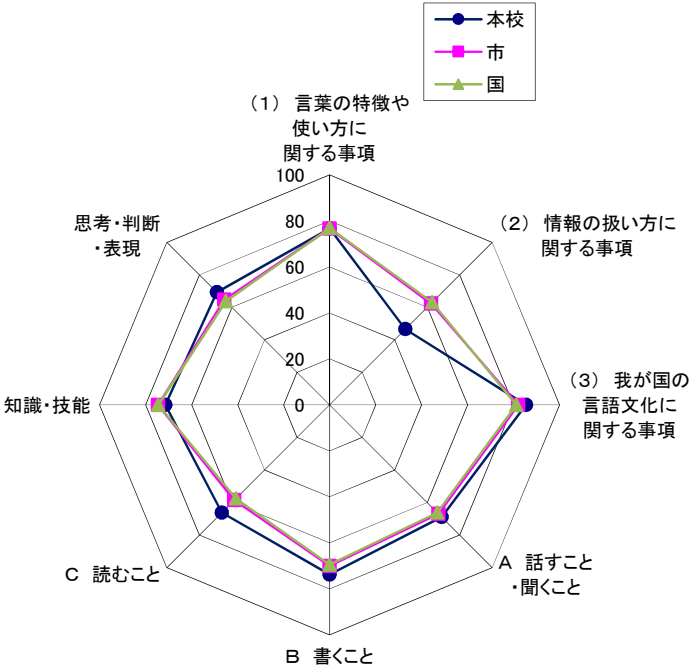
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市富士見小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.7	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	46.6	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.4	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	68.9	67.0	66.3
	B 書くこと	73.8	70.0	69.5
	C 読むこと	66.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	71.4	74.5	74.5
	思考・判断・表現	69.3	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

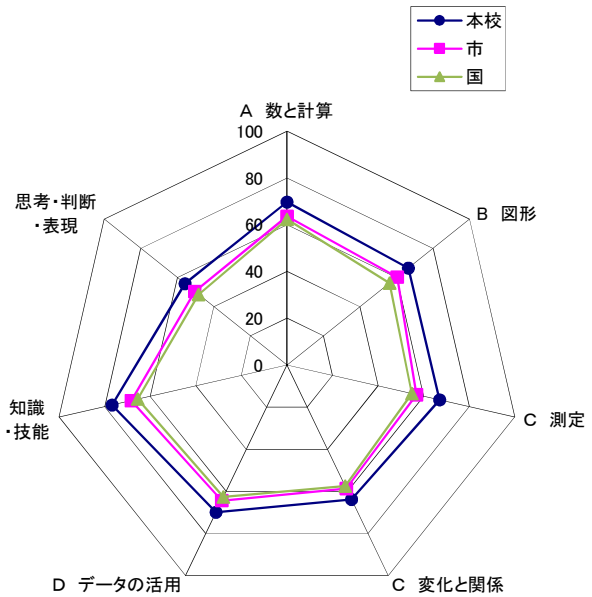
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●本領域の平均正答率は、76.7%で、国の正答率を0.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を学習する際、例文や熟語など文中での使用を意識した練習を行うとともに、当該学年までに配当されている漢字についても、文や文章の中で使うことができるように指導していく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	●本領域の平均正答率は、46.6%で、国の正答率を16.5ポイント下回った。	・資料を読み取ってまとめる際には、言葉だけではなく、分かったことを線でつなぐなど、図にまとめられるように指導していく。これらの活動については、国語だけでなく、総合的な学習の時間を中心に教科横断的に取り組んでいきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○本領域の平均正答率は85.4%で、国の正答率を4.2ポイント上回った。	・読書活動を推奨したり、計画的に図書室を利用したりすることで、読書の楽しさや言葉の豊かさに気付けるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○本領域の平均正答率は68.9%で、国の正答率を2.6ポイント上回った。 ○「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる」については、平均正答率は76.7%で、県の正答率を4.9ポイント上回った。 ●「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」の設問では、国の正答率を1.9ポイント下回った。	・引き続き、スピーチや授業において友達の発言や教師の話を聞く際には、話し手の意図や内容の中心を意識して聞くように指導する。また、話し合い活動において、自分の立場をはっきりさせて自分の考えを述べたり、意図をもって質問できるように指導していく。
B 書くこと	○本領域の平均正答率は73.8%で、国の正答率を4.3ポイント上回った。 ○全ての設問において、国の正答率を上回った。	・モデル文や教科書の文において、意図と表現の結び付けを明示する。 ・書く前のメモ・構成シートを活用することで、情報整理の技能向上を図る。
C 読むこと	○本領域の平均正答率は、66.3%で、国の正答率を8.8ポイント上回った。 ○全ての設問において、県の正答率を上回った。特に、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けすることができる」の設問では、国の正答率を15.5ポイント上回った。	・今後も、パンフレットや新聞など、多様な形態の文章を読んで内容を捉える活動に取り組ませるとともに、読んで分かったことを自分の言葉でまとめたり、自分の考えを書いたりする活動にも取り組ませていく。

宇都宮市立富士見小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.7	63.6	62.3
	B 図形	66.5	60.4	56.2
	C 測定	67.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	63.8	58.6	57.5
	D データの活用	69.9	64.4	62.6
観点	知識・技能	76.7	68.3	65.5
	思考・判断・表現	55.8	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

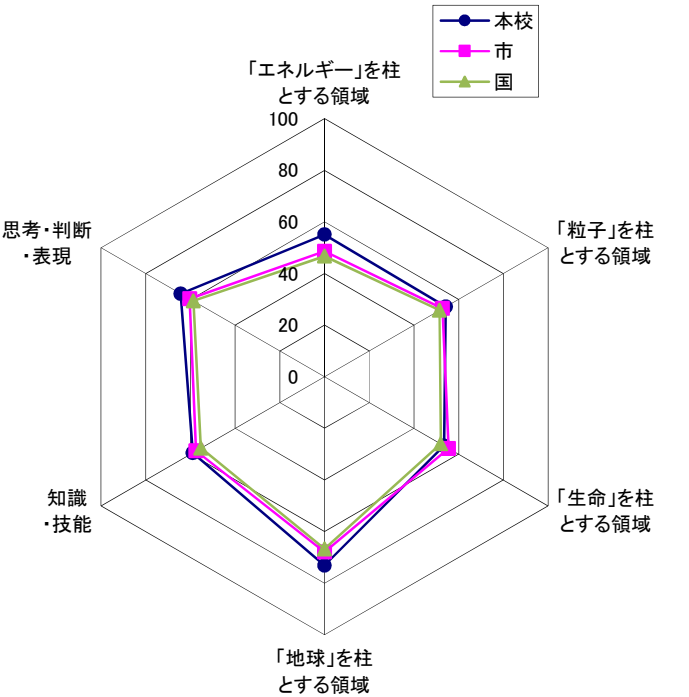
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○本領域の平均正答率は69.7%で、全国の正答率を7.4ポイント上回った。 ○「数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる」の平均正答率は、60.2%で、全国の正答率を25.2ポイント上回った。 ●「伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができる」の平均正答率は、79.6%で、全国の正答率を3.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題を解く際には、問題を解決するために必要な数量について見出すだけでなく、その数量が表す意味について捉えることができるように指導していく。 ・日頃の指導から、数直線や表等を用いて数量の関係を児童自身が表すことができるようにしていく。
B 図形	○本領域の平均正答率は66.5%で、全国の正答率を10.3ポイント上回った。 ○「台形の意味や性質について理解している」の平均正答率は、68.0%で、全国の正答率を17.8ポイント上回った。 ●「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる」の正答率は、43.7%で、全国の正答率を6.7ポイント上回っているものの、平均正答率が低い結果となった。	・三角形や平行四辺形、台形など基本図形の性質や面積の求め方について、練習問題を繰り返し行い、定着を図っていく。 ・図形の性質や面積を求めることができるだけでなく、式や言葉を用いて考えを説明することができるよう、考え方や答えの求め方を説明する学習活動を積極的に取り入れていく。
C 測定	○本領域の平均正答率は、67.0%で、全国の正答率を12.2ポイント上回った。 ○「はかりの目盛りを読むことができる」の平均正答率は、74.8%で、全国の正答率を13.9ポイント上回った。	・理科などの学習で長さや重さを測定する学習活動を取り入れていき、教科横断的に算数の学習を取り入れるなど、学習の定着を図る。
C 変化と関係	○本領域の平均正答率は、63.8%で、全国の正答率を6.3ポイント上回った。 ○「10%増量の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す」の平均正答率は、52.4%で、全国の正答率を11.5ポイント上回った。	・児童自身が問題内容を理解し、数量の関係や変化を捉えることができるよう、数直線や図等で表す活動を取り入れていく。 ・身近な課題を取り上げた問題を児童自身が作成したり、その問題を解いたりすることで、応用力を養っていくことに努める。
D データの活用	○本領域の平均正答率は、69.9%で、全国の正答率を7.3ポイント上回った。 ○「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる」の平均正答率は、81.6%で、全国の正答率を10ポイント上回った。 ●「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することができる」の平均正答率は、48.5%で、全国の正答率を17.5ポイント上回っているものの、正答率が低い結果となった。	・「割合」の基礎的な問題を繰り返し取り組ませ、学習の定着を図る。その際に、「基準量」「比較量」「割合」の意味や関係を確認し、理解を深めることができるようにする。 ・自分の考えやその根拠を記述する活動を算数の学習を中心に取り入れていくことで、児童の記述力を育成できるように、努めていく。

宇都宮市立富士見小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.1	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	54.2	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	53.4	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	73.1	67.9	66.7
観点	知識・技能	59.0	57.5	55.3
	思考・判断・表現	64.4	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は55.1%で、国の正答率を8.4ポイント上回った。 ○「直列つなぎにおいて、電磁石を強くできるものを選ぶ」の平均回答は、73.8%で、国の正答率を18.7ポイント上回った。 ●「電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く」の平均回答は、73.8%で、国の正答率を4.2ポイント下回った。	・材料の性質(通電性・磁性)を実験を通して分類し、実験結果から分かったことを根拠をもとに文章で表現できるように活動を多く取り入れるようにする。 ・回路の組立てと動作確認を通じた仕組みを適切な言葉を使って、理科的事象を説明することができるように、普段から予想や結果やまとめ、考察を自分で記述する活動を取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は54.2.%で、国の正答率を2.8ポイント上回った。 ○「水の結露について、温度によって状態が変化することを適切に説明しているものを選ぶ」の平均回答は、64.1%で、国の平均を6.6ポイント上回った。 ●「海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ」の正答率は、64.1%で、国の正答率を1.5ポイント下回った。	・自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、状態変化・流れ・気付き・予測などを話し合う中で、自分や他者の気付きを基に差異点や共通点を捉える場面を設定するようにする。
「生命」を柱とする領域	●「花粉の観察と顕微鏡操作」は全国平均を下回った。 ○「受粉の仕組み理解」や「発芽条件の制御」についての問題の正答率は良好であった。 ●ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く設問では、国の正答率を10.1ポイント下回った。	・発芽や受粉などの生命現象の因果関係を「ことばで説明する力」を育てる。 ・顕微鏡の使い方では、基本的操作を動画で確認しながら行い、観察記録をまとめて振り返りを行うなど支援を行う。
「地球」を柱とする領域	●「水の状態変化の説明」や、「水の流れと氷のつけ方」の正答率は全国を大きく上回った。 ●海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想して選ぶ問題では、国の平均を1.4ポイント下回った。	・地球規模の現象(温暖化・水循環)を日常生活の事例と関連付けて考えさせる。 ・地球を柱とする領域では、主に時間的・空間的な視点を捉えられるように、観察・実験を通して予想や仮設をもとに問題解決ができるワークシートなどで支援を行う。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について、肯定割合が86.3%と、国の平均を6.0ポイント上回っている。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」について、肯定割合が90.0%と高く、国の平均を4.1ポイント上回るなど、学習の意欲の高さがうかがえる。引き続き、課題い解決型の授業を展開したり、主体的対話的な学習を心掛けた授業を展開したりするとともに、課題に対して興味関心を高めていけるよう指導していきたい。

○「5年生までに受けた授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」について、肯定的割合が86.3%と国の平均を8.5ポイント上回った。また、「5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝える」について、肯定割合が85.6%と国の平均を7.7ポイント上回った。学習において、プレゼンテーションソフトで資料をまとめたり、発表のために自分の考えを整理したりする経験から、少しずつ児童が自信をもって活動に臨む様子が見られた。個人用端末を更に使うことで、より短時間で多くの情報を得たり、友達との意見を共有したりすることのできるよさを生かしながら、自分の意見を更に広げられるように指導したい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定割合が92.2%と国の平均を9.1ポイント上回った。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」について、肯定的割合が95.1%と国の平均を1.4ポイント上回っていることから、前向きに生きようとする資質を生かして、周囲への思いやりの心が育つことがうかがえる。引き続き、道徳に時間や学校生活全体を通じて、夢や希望をもって前向きに、思いやりの心が育むことができるように努めていきたい。

●「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定割合が96.0%と国の平均を0.7ポイント下回った。全体としては高いものの、国の平均ポイントを下回ったことから、学級の当番や係の仕事、なかよし班での活動を通して児童が活躍する場面を作ることで、更に自己有用感を高めたり、友達と助け合うことのよさを味わわせられたりできるように支援していきたい。

●「国語の勉強は好きですか」、「算数の勉強は好きですか」、「理科の勉強は好きですか」について、肯定割合が62.7%、68.8%、82.5%であった。国の平均と比較すると、いずれも国語は4.4ポイント、算数は10.7ポイント、理科は2.4ポイント上回った。しかし、国語や算数においては興味が高いことがうかがえる。児童の興味関心のもてる学習課題の設定をしたり、学習者主体の授業づくりを目指したりしていく。

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定割合が94.1%と高かったが、国の平均を3.1ポイント下回った。一人一人が、いじめがよくないことだと自覚していることがうかがえるが、引き続き、日々の学校生活や学活・道徳の授業において、いじめ問題について考えたり、まごころカードやいじめゼロ強調月間の取組、学校生活アンケート等を活用したりすることで、いじめに対する認識を深め、友達と互いに協力し合える行動実践への意欲を高めさせた。

宇都宮市立富士見小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施。 ・AI型学習ドリルを活用した、個に応じた基礎的・基本的知識・技能の定着 ・年に2回の家庭との連携を図った家庭学習強化週間の実施。	・算数・理科については、知識・技能、思考・判断・表現のどちらの観点においても、国の正答率を上回った。とくに算数については、すべての領域で正答率が5ポイント以上上回り、学力の定着が図られていることが分かる。 ・国語については、思考・判断・表現は5ポイント以上上回ったものの、知識・技能については3.1ポイント下回った。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・自分で問いがもてるような発問や学習活動の工夫 ・解決への見通しをもたせ、思考し、考えをまとめられるような時間の確保 ・自分の考えと友達の意見を比べながら聞いたり、そのうえで自分の考えを伝えたりできるような場の設定 ・「何を学んだのか」を実感させることのできる振り返りの工夫	・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という設問において、国の肯定回答を6ポイント上回っている。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」という設問において、国の肯定回答を5.3ポイント上回っている。 ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という設問において、国の肯定回答を7.2ポイント上回っている。
・個に応じた指導の推進による学習意欲の向上	・興味・関心をもって取り組める学習課題の設定・教材の開発 ・児童のよさや努力したことに対する積極的な承認や称賛	・「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という設問において国の肯定回答を5.5ポイント上回っている。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問において、国の肯定回答を6.9ポイント上回っている。